

【認知症対応型共同生活介護 用】

1. 第三者評価結果概要表

作成日：平成21年9月7日

【評価実施概要】

事業所番号	2893800017		
法人名	社会福祉法人 正久福祉会		
事業所名	グループホームまどか園		
所在地	(〒 671-4122) 兵庫県宍粟市一宮町福知1029		
	電話	0790-74-1622	
評価機関名	特定非営利活動法人 ライフ・デザイン研究所		
所在地	兵庫県神戸市長田区萩乃町2丁目2番14-703号		
訪問調査日	平成21年8月3日	評価確定日	平成21年9月7日

【情報提供票より】〔平成21年7月14日 事業所記入の同書面より要点を転記〕

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年7月1日		
ユニット数	1ユニット (利用定員…計9人)		
職員数	8人	(常勤7人) (非常勤1人)	/ 常勤換算7.4人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	地上1階建て建物の1階部分		

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	57,000円	その他の経費(月額)	15,300円	
敷金の有・無	無し			
保証金の有・無 (入居一時金含む)	無し	(保証金有りの場合) 保証金 償却の有・無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または、1日あたり		1,380円	

(4) 利用者の概要 (平成21年7月14日 現在)

利用者人数	計9名 … (男性0名) (女性9名)		
要介護1	0名	要介護2	2名
要介護3	4名	要介護4	3名
要介護5	0名	要支援2	0名
年齢	平均89.8歳 … (最低87歳) (最高95歳)		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	とくなが病院 広田医院 塚本歯科		
---------	------------------	--	--

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

周辺が自然に恵まれた緑の多い環境に在るホーム。隣地には、同法人の経営する特別養護老人ホームや通所介護事業所もあり、連携の取りやすい関係が確保されている。居住面積(居室及び共用部分)も非常に広く、ゆったりとしている。また、廊下からは、戸外のウッドデッキ(日中は解放)にも出られ、利用者がいつでも自由に安全に外気に触れることができる工夫が施されている。日々の業務が効率よく行なわれるよう、必要書類や記録類の整備にも工夫がされている。家族からも、安心ができるサービスの提供がなされている旨の意見も多い。本年度、管理者が交代(法人内異動)になったが、前任からの、前回の課題や改善目標もしっかりと引継がれており、現管理者は、日々、前向きな姿勢でサービス向上に取り組み努力している。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4) ①「鍵を掛けない取組み」は、管理者の判断により出来るだけ施錠しない時間帯を多く設けるようにした。②ベランダを活用した安全な空間が確保された。③建物周辺の菜園や庭の整備が進んでいる。④個人の生活歴に着目した冊子をモデルとして、利用者のアセスメント作成の応用への取組みが検討されている。
	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:第三者4) ① 昨年の第三者評価をもとに、職員にヒアリングを行い、その結果を管理者がまとめた。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:第三者4, 5, 6) ② 2ヶ月に1回の運営推進会議には、職員と、利用者代表、家族代表(2名)、自治会長、市の職員が出席し、活発な意見交換がなされている。活動報告や行事報告以外にも、利用者の日々の状況や防火訓練、ヒヤリハット事例の報告も行われており、議事録は分かり易くまとめられている。民生委員や自治会長との普段からの付き合いがスムーズに行っており、相談やアドバイスなどが活かされた取組みとなっている。
	③ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8) ③ 利用者個々の課題があり、プライバシーに配慮した取組みが行われている。苦情や不安など、担当者だけで対応できにくい部分があり、管理者が的確に状況を把握し対応することが課題となっている。また、新人教育の重要性についても今後の課題となっており、個別の目標設定に対してOJTを活用した研修を検討している。
重点項目④	④ 日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3) ④ 敷地の中で、菜園や植木の管理などに取組んでおり、日常生活における地域との接点を構築するのに役立っている。また、今年はサマーボランティアで中学生の受け入れも予定している。「ふれあい喫茶」にも多くの地域の方が参加をして下さっている。今後は、ホーム主催のイベント等を利用して、「ボランティア人財」の確保が期待される。

2. 第三者評価結果票

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者1人ひとりが、「あたり前の生活が出来る」ような意識を大切にしている。その人らしい生活を支えることに努め、グループホームの方針・活動等を説明している。利用者の生活に視点を合わせることで、職員からも意見が出易くなっている。	○	利用者の「安心と安らぎ」をテーマとして捉え、管理的にせず自由な対応が出来るようなタイムスケジュールを組んでいる点を今後も続けて頂きたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	家庭的な雰囲気を大事にしている(玄関先に麦藁帽子をさりげなく置いている等)。日々の申し送りや、ミニ研修での意見交換がされており、管理者の意向が伝わり易い雰囲気である。新人の職員で直接意見が出にくい場合は、中堅の職員がその意見を管理者に伝える役割も果たしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元の自治会長や民生委員との連携が出来ており、地域の運動会やお祭りなどの行事にも積極的に参加している。法人が行なっている福祉祭りにも、地元の人に参加しやすいことを心がけている。散歩の際の挨拶や、近隣からの野菜の差し入れなど、気軽に双方向での交流ができる雰囲気がある。	○	地元の公民館で、毎月開催されている『ふれあい喫茶』には、4～5人の利用者が参加しており、人手不足にならないような勤務形態がとられている。地元の子供達も自由に出入りできるよう、イベントなどもPRしていく予定。是非、子どもたちとの交流の実践に向けて尽力願いたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者が交代になったが、今までの取組みを下地として、更なる改善が積極的に行われている。毎年、継続して評価を受けることで、少しずつではあるが改善目標が明確化され、次のテーマに向かって行動する指針となっている。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な開催によって、日常生活の様子やイベント、ホームとしての取組みなどが情報として発信できている。サービスの質の向上について、地域との接点(例えばバーベキューの開催など)での意見が出されており、今後の取り組みが期待される。	○	民生委員や自治会長との連携が出来ており、今後、困りごとの相談やテーマの絞込みなどのアドバイスもらえるような関係を維持して頂きたい。
6	9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括センターとの接点から、市町との連携がうまく行っている。相談ごとなども気軽に出来る環境であり、今後も協力体制が維持できる。キャラバンメイトの受講者も2名おり、今後、市との協力体制も出てくることが期待される。	○	市が主催している「介護者の会」に、管理者や職員も参加しており、秋には管理者が講師として出席の予定。地域の方々への知識還元にも続けて尽力を願いたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月の金銭管理報告や請求書とともに、「ほっと通信」を同封し、近況の報告も行なっている。毎月の外出行事の際には、家族の了解を得るための連絡もしており、家族がホームを訪問した折には、細かな報告や相談も行なわれている。	○	毎月のお便りに、利用者毎に個別の状況報告や活動記録など、家族にとって身近に知りたい情報の提供をすることを提案したい。メッセージカードの活用など、小さなことの積み重ねが利用者の生活改善に繋がっていくこととも考えられる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見を言い易い環境作りに配慮しており、偶数月の第二月曜日を運営推進会議の日とし、定例化している。同じ日にソーメン流しのイベントを開催したり、次回8月は金曜日の夕方からの開催とするなど、家族が出席し易いように配慮されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	去年は2名退職者がいたが、連絡引継ぎなど十分に配慮している。家族のアンケートの結果でもその懸念は出ていない。新規職員は1名入っているが、管理者が研修をかね、早く慣れるように配慮をしている。		


外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の認知症ケアに対する研修や、非常災害時における取組みなどに力を入れており、法人組織全体でのバックアップ体制が出来ている。研修に対する意見は、職員の人事考課の場面でも反映され、新人職員についてはOJTでの能力向上に力を入れている。	○	事業の拡大を視野に入れ、人材育成の教育担当者を育てることが、法人全体の事業方針となっている。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の盆踊り行事を通じて、同業者との交流を企画している。宍粟市の介護支援専門員協会が主催している認知症についての学習会にも参加しており、他施設からの申込みがあれば、訪問・実習にも対応をしている。	○	今年度、市内の他のグループホームとの交流を行なってみたいという意向がある。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居に繋がるケースでは、ケアマネジャーからの問合せや、家族からの見学申込みが多く、併設のショートステイの利用やデイサービス利用を通して馴染みの関係を作っている。事前の見学や、施設の方針などを十分に伝え、安心して入居できるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の生活に合せた関係作りをしており、家事の手伝い、掃除、裁縫、畑の管理などを通じて、利用者の生活体験の中から、職員との会話が自然に出てくるような取組みがされている。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中から、利用者本人の生活体験が見えきたり、家族の協力でその人の価値観が分かったりする。利用者の方の「一代記」を作成したことで、アセスメントツールとしての利用も出来た。月毎にテーマを絞って、アセスメントする取り組みも考えている。		
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	一人の利用者を支えるため、多くの人たちが協力し介護計画を作成している。家族の意向や、医師の意見も踏まえ、その人らしい生活を維持する視点で計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	平均年齢が高くなりADLも低下する中で、現状を少しでも長く維持できるような計画見直しがされている。食事や水分の摂取を含め、利用者の体調管理に気を使っており、90歳近い平均年齢の割には屋内での車椅子利用者が少ないように感じた。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設されているデイサービスや、法人の中心である特養との関係を上手に活用しながら、事業所の多機能性を活かした支援が出来ている。	○	今後は、地域包括支援センターとの連携や、支部活動を通じた勉強会への参加等、幅広い取り組みが期待される。

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までのかかりつけ医については、利用者及び家族の希望する支援がされており、それ以外に協力医院や診療所などの医師が往診などにも対応している。認知症についての相談や精神科医のアドバイスなど、適切な医療を受けられるよう支援がされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りの事例は無いが、「看取りの指針」を作成しており、医師を交えて本人や家族との話し合いも行っており、方針の共有が出来ている。事業所としては、訪問看護サービスとの連携も出来ており、研修テーマとしても捉えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーの保護に関する研修も行なわれており、法人として、個人情報保護委員会を設けている。日常生活における個人の尊厳やプライバシーに関して、日々の業務の中で注意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	普段の声かけでも、利用者本人の自己決定を大切に、一日のスケジュールについては柔軟な対応を心がけている。建物の空間が広いことを活用し、個人の安らぎの空間が確保できるような検討をしている。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月に2回、職員と利用者の希望を聴きながら夕食作りをしている。普段は特養の栄養士によるメニューであるが、自家栽培の野菜なども取り入れた献立作りも行なわれており、食事の準備や片付けなど、色々な側面から食事を楽しむことのできる支援がされている。	○	野菜を使ったメニューとして、漬物や煮物などをもう一品追加できるよう検討をしている。利用者にとって収穫物を使っての調理で、食事が楽しみなものになったり、「できること」への自信に繋がる様、実践に期待をしたい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の時間帯は、利用者の希望に沿った対応がされており、週に3回を基本としている。ADLの低下した人には、ミストシャワーや、特養やデイサービスの特浴を利用してもらうことでの対応が可能である。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者個々のアセスメントの中から、その人が出来る事を見出しながら、その人に合った過ごし方をしてもらっている。畑仕事やホームの清掃、食事の準備や片付けなど、生活歴などを活かした気晴らしの支援が出来る。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節ごとの行事だけではなく、日常における外出の機会を確保できるように取組んでいる。食材の買出しや、生活用品の買出しなど、地域との接点も意識した外出支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中はオープンな環境を確保できるように、管理者が判断して玄関、リビング出入り口、勝手口などを開放している。夜間は防犯面など、危険防止のために施錠をしている。	○	バルコニーへの出入りを容易にしたり、鍵を掛ける時間帯を少なくするなど、安全を重視した上での積極的な取り組みが実践されている。今後も、このような取り組みを継続してもらえるように願いたい。

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人の防災計画を基に、関連事業所の持ち回りで2ヶ月に1回の防災訓練が実施されている。近隣の婦人部が積極的に係わってくれており、ホームでも夜間想定による訓練が行なわれている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の好きな食べ物をアセスメントし、特養の栄養士がメニューの作成をしている。食事の摂取状況や水分確保についても記録されており、特に水分摂取については一日1500ccを目標として支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広々としたリビングには、ソファーが置かれており、全体的に明るく活気のある生活空間作りがされている。玄関先にさりげなく置かれた麦藁帽子や、ダイニングに置かれている水槽など、何処にでもあるような日常性を大事にしている。	○	テレビの位置やつける時間等に、工夫をされてはいかがでしょうか。(BGMを流してみる等も検討)一日の中で短時間でも良いので、職員が利用者と一緒に座り、テレビを見たり、歌を口ずさんだりしながらの会話の時間を意識して作ることを検討願いたい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各個室には表札が掛けられており、部屋には個人の使い慣れた家具なども設置されている。基本的には危険を伴わないものであれば持込は自由である。特徴として、2人部屋で使える部屋もあり、その場に合わせた使い勝手も可能である。		

※  は、重点項目。